

[研究ノート]

## 初期新高ドイツ語中辞典作成の試み

工藤 康弘

初期新高ドイツ語（1350～1650年）の語彙を日本語で説明する辞典として、筆者は2018年『初期新高ドイツ語小辞典』（大学書林）を出版した。体裁としてはA.GötzeのFrühneuhochdeutsches Glossar (de Gruyter) やCh.BaufeldのKleines frühneuhochdeutsches Wörterbuch (Niemeyer) と同じく、見出し語と語の意味だけで構成されており、例文はついていない。これと対極をなすのが今も分冊で刊行中のFrühneuhochdeutsches Wörterbuch. Begründet von R.R.Anderson/ U.Goebel/ O.Reichmann (de Gruyter) である。ここには多くの例文が出典とともに載っている。De Gruyter社のウェブサイト (<https://www.degruyter.com>) やこの辞典をインターネットに公開しているウェブサイト (<https://fwb-online.de/>) によると、2027年に全12巻で完成する予定である。この辞典を大辞典とするならば、日本語で書かれた『初期新高ドイツ語小辞典』の次に必要な、そして作成可能なものは中辞典規模の初期新高ドイツ語辞典である。以下では中辞典の構想を簡単に述べ、見出し語abからabenteuererまでの記述を試みる。

『初期新高ドイツ語中辞典』は小辞典と異なり、日本語訳をつけた例文を載せる。例文は主に小辞典を作成した際の資料、およびその後集めた資料から抽出する。Frühneuhochdeutsches Wörterbuch (de Gruyter) やグリムのドイツ語辞典からも、引用の断りを入れたうえで、積極的に例文を取り入れる。ただ、辞典の例文はテキストの一部を切り取ったものであり、前後のコンテキストがあるとしてもわずかである。こういう悪条件のもとで文意を把握し、日本語の訳文をつけるのは容易なことではない。ある見出し語に関して、語の意味が3つある場合、3つすべてに対して例文をつけるのが理想であるが、訳出が困難なときは例文を挙げ

ないという選択肢もあり得る。

中辞典ではさらに、Frühneuhochdeutsches Wörterbuch (de Gruyter)、A.Götze や Ch.Baufeld の小辞典、Grimm のドイツ語辞典、H.Paul のドイツ語辞典、語源辞典などの記述を適宜紹介し、読者が語史的、語源的な情報を得られるようにする。

本稿およびそれに続く論考で、例文と語史的、語源的な情報を含んだ辞典の作成を試み、将来的な初期新高ドイツ語中辞典へつなげたい。以下は辞典の部であるが、いくつか留意点を記す。例文とその日本語訳は斜字体で記し、見出し語に相当する箇所は下線で示す。例文の出典および説明に利用した文献はFW、BK、PAULI のような略記号で表し、巻末に略記号一覧を挙げる。文字の上に小さな e があるなどの初期新高ドイツ語特有の表記は、現代語の表記に改めている。

**ab** I. → aber. II. präp. (= nhd. von) …から下へ、…から離れて。 *floch das arm volk überall ab dem land in die stett.* 貧しい民衆はいたるところ、田舎から町へ逃げた。(FW, Bd.1, S.2.) ; (= nhd. über) …に関して。 *Alle die semlichs sahen/ verwunderten sich ab dem grossen gut* そのようなことを見た人はみな大きな財産に驚いた。(BK, Text 235, Wickram 47-24)

**abbitten** vt./vi. ① (人<sup>4</sup>の) 釈放を求める。 *„Lieben Fründ, was hat doch der gut jung Gesel gethon? Wer nit für ihn zu bitten? Wir wolten alle helfen, das er möcht ledig werden.“ Die erbaren leute, die da zugegen stunden, sprachen: „Ach ja, es wer wolgethon, das ihr ihn abbetten.“* 「みなさん、その善良な若者が何をしたというのか。彼の助命嘆願はできないのか。私たちは彼が解放されるよう手助けしたい。」そこに居合わせたお偉方たちが言いました。「確かに、あなたがたが彼の釈放を求めることはいいことです。」(PAULI (1)、697 話) ★例文では **abbetten** とある。 **bitten** と **beten** は語源的に関連しており、本書 **bitten** の項にあるように、両者は区別なく使われることがある。② 懇願によって遠ざける、免れる。 *Helff unß gott allen, das wir [···] seynen tzorn mit rechtem glauben abebitten.* 私たちすべてが本当の信仰によって神の怒りを免れるよう、神が助けてくれますように。(FW, **abbitten** の項, Luther)

③ 許しを請う。

- abbrechen** vt. ① (jm. et.) 取り上げる, やめる, 与えない. *Es was uff ein Zeit einer ein Apt worden in einem Kloster, der brach den armen Lüten das Almusen ab*, 昔ある修道院で一人の男が院長になりました. 彼は貧しい人々への施物をやめました (PAULI (1), 60 話) ② (欲求などを) 抑える. *[...] da gewan die Frau den allergrößten Lust, auff den Hund zu sitzen und auff im zu reitten, das sie ir nit mocht in keinerley Weg abbrechen noch widerstandt kunth thun*, するとその女性は犬にまたがって乗り回したいというきわめて大きな欲求に見舞われ, その欲求を抑えることも, それにあらがうこともできませんでした (PAULI (1), 705 話)
- abbruch** m. ① (an et.) 節制, 禁欲. *Es sein auch die, die ir Hauß, das ist iren Leib verderben mit unvernünftigen Abbruch an Essen und an Trinken*, また愚かにも飲食を控えることで自分の家, すなわち自分の肉体を損なう人たちもいる (PAULI (1), 37 話) ② 損なうこと, 損害. *Damit das nieman geergert werde und dem Gesetz kein Abbruch geschehe*, 誰も腹を立てないように, また法が損なわれないように (PAUL (1), 226 話)
- abdäuen** (別形については *däuen* 参照) vt. 消化する. = nhd. *verdauen*. 【類義語 *däuen*】 *nach dem sie nun gessen hand/[...] / seind sie auffgestanden/ unnd in einen schonen lustigen garten spatzieren gangen/ die speiß abgedeiwet* 彼らは食事をとったあと [...] 立ち上がり, 素敵で心地よい庭を腹ごなしに散歩しました (散歩して食べ物を消化しました) (KNAB.SPIEGEL. 62 ページ 11 行)
- abdanken** ★ GR.NEU によると, 本来別れ際に世話になった礼を言うという意味であったが, 次第に謝辞の意味が薄れ, 「去る」「離れる」の意味になった. vi. ① (食事のあと) 謝辞を述べる; 礼を言って辞する. *Nach dem die Mallzeit vollenbracht war, war es zeit[...], dz man abdancken solte*. 食事が終わると [...] 謝辞を述べる 時間になった. (SCHILTB.378 ページ 32 行) ② (3 格から) 離れる, 別れる.
- abdrohen** (別形 *abtreuwen*) vt. (人<sup>3</sup>物<sup>4</sup>) 脅し取る. 【類義語 *abschrecken*】 [...] *die (娘) sol sie (母親) wol etwan selber einem reichen Pfaffen oder einem Edelman heimfüren oder als Wescherin heimschicken und*

*inen allen Gelt abtreuwen und abschrecken […]* 母親がおそらく自分から娘を金持ちの坊主や貴族のところへ送り出し、また洗濯女として送り込み、その人たちすべてからお金を脅し取ったり […] (PAULI (1) (2), 16 話)

**abendessen** n. (宗教的に) 最後の晩餐.

*In iren sunden sy wandern*

*Zu dem lesten abent ezzen,*

*Do ir ydoch wirt vergezzen.*

彼ら(悪人)は最後の晩餐で罪の中をさまよひ、しかしそこで忘れ去られる。(HIOB, 5629 行)

**abendregen** m. 秋雨. vgl. morgenregen (春雨) ★FWによれば、宗教的なテキストで、比喩的に用いられる。*SO seid nu gedultig, lieben Brüder, bis auff die zukunfft des HErrn. Sihe ein Ackerman wartet auff die köstliche frucht der Erden, vnd ist gedültig darüber, bis er empfahe den Morgenregen, vnd Abendregen. 兄弟たちよ、主が来られるまで辛抱しなさい。見よ、農夫は大地の貴重な実を待ち、春の雨と秋の雨を受け取るまで辛抱している。(LUTH, ヤコブの手紙5,7)*

**abenteuer** f./n. 奇妙なこと、不思議なこと；奇行。*Es begab sich, das ein Priester von Sinnen kam und treib vil Abenthüer und kunt jederman ein Schlotterlin schlagen und etwas sagen. あるとき一人の司祭が正気を失い、多くの奇行を行なって、誰にでもいたずらをしたり、何か言ったりしました。(PAULI (1), 610 話)*

**abenteuerlich** (別形 ebenteuerlich) adj. ① 賢い。② 勇敢な、大胆な。③ 奇妙な、風変わりな。★ACKERM. (1) の10章13行および29章11～12行にこの語が使われている。10章13行：*Wie die behenden, abenteuerlichen, hochgelerten und allerlei meisterschaft wol vermügenden leute* 俊敏並外れた博学にしてかつ冒険心に富む、またありとあらゆる技芸に熟達した人間(ACKERM. (4))。abenteuerlichen に対して ACKERM. (5) は「果敢で」と訳し、ACKERM. (2) の現代語訳は außerordentlichen、ACKERM. (3.2) の注釈では (aus der Menge) herausragend, auserlesen としている。GR.NEU では語義1の中で本来の意味 (ritterlich, tapfer, kühn, wagemutig) から派生した意味

(kenntnisreich, verständig, beschlagen) の例として当該の箇所を挙げている。FW は語義 1 (weise, klug, vernünftig) の項目にこの例文を入れている。

29 章 11 ~ 12 行は以下のとおり : *jeder abenteuerlicher und sinniger man* ありとあらゆる傑出した理性的な男性 (ACKERM. (4))。ACKERM. (5) は「卓抜した」と訳し、ACKERM. (2) は現代語訳として *erfahren* をあてている。

本辞典では「とびぬけた」「卓抜な」という意味は載せなかったが、文献によってはこの意味を挙げていることを指摘しておきたい。

**abenteurer** (別形 *aventürer, obentürer*) m. ① 旅の職人, 遍歴職人; 行商人. ② いたずら者, いかさま師, 山師. *Und es kam uff ein Zeit ein Abenthürer oder ein Sprecher über des Keisers Vespasianus Tisch, da er mit dem Fürsten aß, ある時皇帝ヴェスパシアヌスが諸侯と食事をしていた食卓に、流れ者の道化師がやって来ました (PAULI (1) (2), 189 話). Abenthürer, wahin, Gauckelman? おい、どこへ行くのだ、いたずら者. (PAULI (1) (2), 658 話) ★①の意味では Krämer, Kaufleute, ②の意味では Gaukelmann (=Gaukler), Spielmann, Sprecher などと並置されることが多い。*

### 略記号一覧

#### (使用テキストおよび参考文献)

- ACKERM. (1): Johannes von Tepl: der ackerman. Hrsg. v. Willy Krogmann, F.A.Brockhaus, Wiesbaden. 1978.
- ACKERM. (2): Johannes von Tepl: Der Ackermann. Hrsg. v. Christian Kiening, Reclam, Stuttgart. 2002.
- ACKERM. (3.1): Johannes von Saaz: Der Ackermann aus Böhmen. Band I. Hrsg. v. Günther Jungbluth, Carl Winter, Heidelberg, 1969.
- ACKERM. (3.2): Johannes von Saaz: Der Ackermann aus Böhmen. Band II: Kommentar. Aus dem Nachlaß von Günther Jungbluth. Hrsg. v. Rainer Zäck, Carl Winter, Heidelberg, 1983.
- ACKERM. (4): ヨハネス・デ・テプラ著、青木三陽・石川光庸訳『死神裁判』現代書館 2018年。

- ACKERM. (5): ヨハネス・フォン・テープル著、石井誠士・池本美和子訳『ボヘミアの農夫』人文書院 1996年.
- BK: Das Bonner Frühneuhochdeutschkorpus (= <https://korpora.zim.uni-duisburg-essen.de/FnhdC/>)
- FW: Frühneuhochdeutsches Wörterbuch. Hrsg. v. R. Anderson・Ulrich Goebel・Oskar Reichmann. Walter de Gruyter, Berlin・New York.
- GR.NEU: Deutsches Wörterbuch von Jacob und Wilhelm Grimm. Neubearbeitung. Hrsg. v. der Deutschen Akademie der Wissenschaften zu Berlin in Zusammenarbeit mit der Akademie der Wissenschaften zu Göttingen. S.Hirzel Verlag. (分冊あるいは合本の形で刊行中のため、年号等は省略)
- HIOB : Die mitteldeutsche poetische Paraphrase des Buches Hiob. Hrsg. v. T.E.Karsten. Wiemannsche Buchhandlung, Berlin 1910.
- KD: 工藤康弘 : 『初期新高ドイツ語小辞典』大学書林 2018年.
- KNAB.SPIEGEL : Georg Wickram: Sämtliche Werke, Hrsg. v. Hans-Gert Roloff, Bd. 3: Knaben Spiegel; Dialog vom ungeratnen Sohn. W. de Gruyter, Berlin, 1968.
- LUTH : D.Martin Luthers Werke. Kritische Gesamtausgabe (Weimarer Ausgabe) 6. Band: Die Deutsche Bibel. 1929.
- PAULI (1) : Johannes Pauli: Schimpf und Ernst I, II. Hrsg. v. Johannes Bolte. Georg Olms, Hildesheim・New York, 1972.
- PAULI (2) : ヨハネス・パウリ『冗談とまじめ』名古屋初期新高ドイツ語研究会訳(同学社) 1999.
- SCHILDB : Volksbücher des 16. Jahrhunderts. Eulenspiegel. Faust. Schildbürger. Hrsg. v. Felix Bobertag. Verlag Spemann, Berlin und Stuttgart, 1887.